

公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会  
令和3年度全国教職員研修会

第1分科会 教育力向上を目指して－『ヘルプマン！』に学ぶ介護過程を題材に－

報告

令和元年度 社会福祉推進事業

「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業」

北海道医療大学先端研究推進センター  
伊藤 優子

# なぜ今「介護過程」なのか

## ○多様な人材によるチームケアの推進

労働人口が減少するなか、限られた介護人材で、より質の高い介護サービスを提供するためには、

- ・多様な人材層の参入による量の確保
- ・多様な人材による介護職チームが機能するために、チームケアの推進による質の向上 が必要。



チームケアの推進にあたっては、チームメンバーに対する指導や**サービスが適切に提供されているかをマネジメント**するチームリーダーが必要。

## ○令和3年度介護報酬改定 LIFEによる科学的介護への流れ

計画書の作成等を要件とするプロセス加算において実施するPDCAサイクルの中で、

- ・これまでの取組み等の過程で計画書等を作成し、ケアを実施するとともに、
- ・その計画書等の内容をデータ連携により大きな負荷なくデータを送信し、
- ・同時にフィードバックを受けることにより、利用者の状態やケアの実績の変化等を踏まえた計画書の改善等を行うことで、

**データに基づくさらなるPDCAサイクルを推進**し、ケアの質の向上につなげる。

科学的介護情報システム (Long-term care Information system For Evidence;LIFE ライフ)

# 期待される介護福祉士のリーダーとしての役割

## ◆介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて

平成 29 年 10 月 4 日 社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会

利用者の尊厳と自立を支援するためには、介護計画等に沿った介護サービスの提供と、サービスの質の把握・改善等のマネジメントが行われる必要がある。このため、リーダーは、介護職のグループの中で介護過程の展開における介護実践を適切に管理する役割を果たすべきである。

## ↳ リーダーとして期待される役割

### ◆高度な知識・技術を有する介護の実践者としての役割

介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応していくためには、より専門的な知識・技術が必要となることから、多職種と連携しながら、様々なニーズを持つ利用者への対応といった役割を果たすべきである。

### ◆介護技術の指導者としての役割

多職種によるチームケアの中で、介護職がグループとして利用者に対する質の高い介護を提供するため、グループ内の介護職に対し、個々の介護職員の意欲・能力に応じて、利用者のQOL（生活の質）の向上に資するエビデンスに基づいた介護サービスの提供に向けた能力開発とその発揮を促す環境づくりの役割を果たすべきである。

### ◆介護職のグループにおけるサービスをマネジメントする役割

利用者の尊厳と自立を支援するためには、介護計画等に沿った介護サービスの提供と、サービスの質の把握・改善等のマネジメントが行われる必要がある。このため、リーダーは、**介護職のグループの中で介護過程の展開における介護実践を適切に管理する役割**を果たすべきである。

# カリキュラム見直しの背景

## ◆介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し

- 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化への対応を踏まえると、適切に利用者等のニーズ・課題を捉えた上で支援を行っていく必要があることから、介護過程の学習内容の充実も必要である。
- この介護過程については、個別ケアの実践が適切に行われるようアセスメント力を高めることが重要であり、利用者本人の心身の状況にかかるアセスメントだけでなく、本人の生活の場である地域や集団との関わりといった社会との関係性も含めたアセスメントについても十分に学び、対応できるようにしていく必要がある。



## ◆カリキュラム見直しの観点

- ✓専門職としての役割を発揮していく為のリーダーシップやフォロワーシップについて学習内容を充実させる
- ✓本人が望むことのできる生活を地域で支えることができるケアの実践力向上のために必要な教育内容を充実させる
- ✓介護過程におけるアセスメント能力や実践力を向上させる
- ✓本人の意思（思い）や地域との繋がりに着目した認知症ケアに対応した学習内容を充実させる
- ✓多職種協働によるチームケアを実践するための能力を向上させる

# 介護過程のねらいと教育に含むべき事項

## 教育のねらい

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

教育に含むべき事項	留意点
①介護過程の意義と基礎的理解	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。
②介護過程とチームアプローチ	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画（介護計画）との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。
③介護過程の展開の理解	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。



**養成校・実習施設における「介護過程」の教育内容の更なる充実が必要**

# 介護過程・介護実習の教育力向上に資する調査研究

## ◆平成30年度社会福祉推進事業

○「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業」（介養協）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525759.pdf>

○「介護福祉士の養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業」（介士会）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525325.pdf>

## ◆令和元年度社会福祉推進事業

○「介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業」（介士会）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000651536.pdf>

○「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業」（介養協）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000651569.pdf>

今回の  
報告

## ◆令和2年度社会福祉推進事業

○「介護現場における介護過程実践の実態調査及び効果検証に関する調査研究事業」（コモン計画研究所）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000791420.pdf>

○介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業（介養協）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000791452.pdf>

—新カリキュラム対応—

### 介護実習指導の内容とポイント

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正により  
介護実習指導の内容やポイントが変わります

介護福祉士実習指導者講習は受講しているもの

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正が行われたことを知らない  
 介護実習に3つの「教育に含むべき事項」が示されたことを知らない

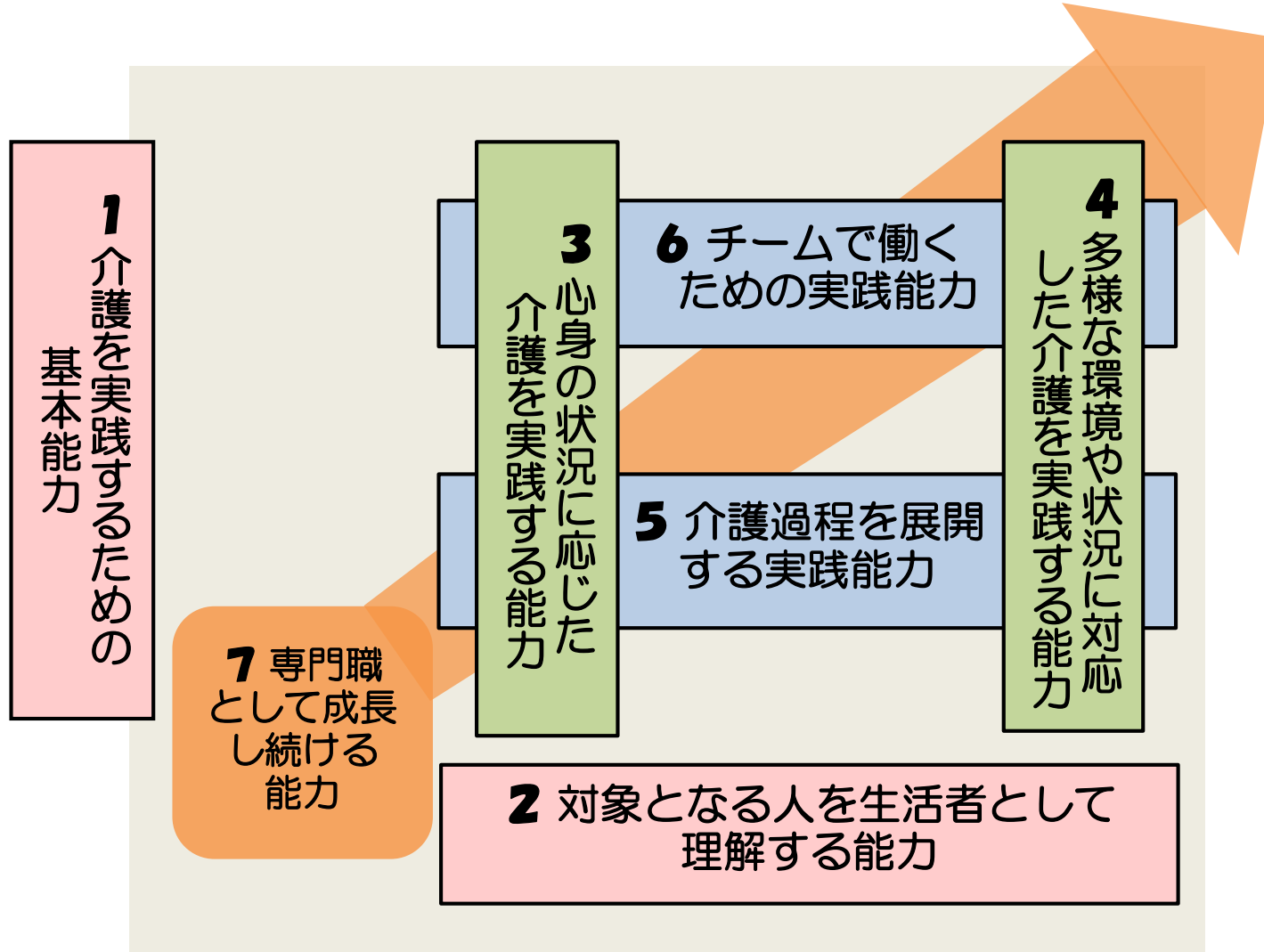
上記のいずれかに  が入った方は、

新カリキュラムに対応した実習指導について  
アップデートし、適切な実習指導を行いましょう！

令和元年度に、日本介護福祉士会が都道府県の介護福祉士会と協力して全国的に実施した「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」で使用したスライド資料を共有させていただきます。ぜひご活用ください。

※都道府県介護福祉士会では、令和2年度から、新カリキュラムに対応したテキストを使用した介護実習指導者講習会を開催します。  
※新カリキュラムに対応した実習指導方法を学ぶ研修を実施する介護福祉士会もございますので、ご関心のある方は、お近くの介護福祉士会にお問い合わせください。

# 介護福祉士養成課程における 修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造



# 7つのコアコンピテンシーと24の具体的能力

参考

コアコンピテンシー	具体的能力
1 介護を実践するための基本能力	1 尊厳を保持し、自立を支援する能力 2 対象となる人の権利を擁護する能力 3 意思表示や意思決定を支援する能力 4 支援に必要な人間関係を形成する能力
2 対象となる人を生活者として理解する能力	5 生活者を身体的・心理的・社会的・実存的側面から理解する能力 6 生活者を取りまく環境を理解する能力 7 ライフサイクルの観点から生活者を理解する能力
3 心身の状況に応じた介護を実践する能力	8 対象となる人や家族をエンパワメントする能力 9 対象となる人の日常生活や社会生活を支援する能力 10 障害や認知症、慢性疾患などのある人を支援する能力 11 介護予防やリハビリテーション、終末期などの状況に応じて支援する能力
4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力	12 生活の場や家族形態・状況に応じて支援する能力 13 安心・安全な生活環境を整える能力 14 制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する能力 15 災害などの非常事態に対応し、支援する能力
5 介護過程を展開する実践能力	16 対象となる人をアセスメントする能力 17 アセスメントに基づき介護計画を作成する能力 18 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力 19 実践を評価し、改善する能力
6 チームで働くための実践能力	20 チームの一員としての役割を自覚し、協働する能力 21 他の職種・機関などと連携する能力
7 専門職として成長し続ける能力	22 実践の中で研鑽を深め、研究する能力 23 介護にかかわる情報を発信する能力 24 自身の健康を管理する能力

コンピテンシーの習得に求められる具体的な能力



# 「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

参考

具体的能力	修得度評価基準
16 対象となる人をアセスメントする能力	91 介護実践におけるアセスメントの意義と着眼点を説明できる 92 事例と実習を通して、情報の分析・解釈・統合ができる 93 状況に応じた介護や生活支援という目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる 94 利用者の活動に影響をおよぼしている人間の心理、人体の構造と機能について説明できる
17 アセスメントに基づき介護計画を作成する能力	95 介護実践における介護計画立案の意義について説明できる 96 立案した介護計画の根拠や内容について、同職種や他職種に説明できる 97 アセスメントにより設定した生活課題と介護の方向性に基づき、介護計画を立案できる
18 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力	98 立案した介護計画を、チームメンバーと連携し、指導のもと実践できる 99 立案した介護計画を、利用者の状況にあわせて指導のもと実践できる 100 日々の介護実践を、専門職の支援として記録できる 101 具体的な支援の根拠を説明できる
19 実践を評価し、改善する能力	102 介護実践における評価の意義を説明できる 103 チーム（同職種・多職種）における評価の意義を説明できる 104 介護計画にそって実施できたか、介護計画は適切・妥当であったかについて評価できる 105 目標到達の状況を踏まえ、再アセスメントの必要性について検討できる

# 令和元年度介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業研究の全体像

(1) 養成施設対象  
アンケート調査



(2) 実習施設対象  
ヒアリング調査

※介護過程の展開を教授するうえでの課題、教育事例、工夫例などを把握

上記の結果と分析をもとに調査研究の一環として研修会を実施し、  
養成校及び実習施設から教育・指導の課題や意見・要望等を把握

(3) 研修会の実施と参加者からの意見収集(養成施設・実習施設)

介護過程の教授と指導の事例

# 養成校へのアンケート調査結果 1

## 養成校で介護過程の展開を教授するうえでの課題

- ✓学生の文章力・語彙力の低下
- ✓分析・解釈・統合ができない
- ✓生活感がない／生活がイメージできない
- ✓学生の多様化
- ✓留学生への指導が難しい
- ✓教授法／授業で用いる事例／教材
- ✓卒業後活かされない（施設で展開されない）

## 教授法の工夫

- 身近な題材の活用
  - ・ 自分自身、家族、クラスメート、教員など、身近な人を対象に情報収集の練習を始めている
  - ・ 「85歳になった私」と題して、高齢者になった自分を想像してもらい、要介護状態になった自分をモデルに介護過程を展開してもらう
  - ・ 観察力をつけるために、絵や写真など静止画から情報を得て、文章化し、それを他者と比較する
- 視聴覚教材の活用
  - ・ 施設で働いている介護福祉士に利用者役をしてもらいDVDを作成
  - ・ 計画立案後に実施内容を動画で撮影、確認する工夫をしている
- 多職種連携、チームアプローチ
  - ・ 他資格の専門職をゲストスピーカーとして招聘し活用
  - ・ 対象者1名の同じ事例を使って、他学科（Pt、OT、看護師、歯科衛生士）と話し合いながら支援計画を作る
- 科目間連携
  - ・ 一つの事例を用いて、こころとからだのしくみ、生活支援技術、介護過程 と連動させ、関係するすべての授業で同じことを伝えている

## 養成校へのアンケート調査結果 2

### 実習施設で行われる介護過程の指導の課題

- ✓実習施設による指導方法・指導内容の差
- ✓施設で介護過程が展開されていない
- ✓施設が多忙（指導者が対応できない）
- ✓養成校によって介護過程の様式が異なるため、指導者が混乱している
- ✓生活課題の捉え方が難しい

### 実習施設との連携の工夫

- 事前の打ち合わせと情報共有
  - ・ 事前に説明会を開催（又は、施設を訪問）し、養成校での指導内容や記録の記載方法について説明
  - ・ 実習前に学生の特性、不得意な部分の共有
- 巡回指導、帰校日
  - ・ 週2回の巡回を行い、1回は、実習指導者の参加の下ケースカンファレンスを実施
- カンファレンス
  - ・ 他職種の方から話を聞く機会の設定、サービス担当者会議及びケアカンファレンスへの参加
  - ・ 学生が作成した介護過程の成果物をもとに、看護、介護、栄養士など多職種が集まりカンファレンスを実施
- 実習指導者との情報共有
  - ・ 養成校から、実習施設への出前講座
  - ・ 実習指導の実践報告会を企画し、それぞれの施設がどのような工夫をしているのか情報の共有
  - ・ 事例報告会、実践報告会の開催

# 実習施設へのヒアリング調査結果 1

## 介護過程を指導するうえでの課題

- ✓ 対象となる利用者さんを選ぶときに、情報収集をしやすい人、コミュニケーションをとりやすい人を選ぶため、同じ利用者さんに集中する傾向にある。
- ✓ なぜその利用者の方に関心を持ったのか、なぜその利用者の方のプランを考えたのか根拠が乏しい。
- ✓ 介護計画が、介護に関することよりもレクリエーション中心になりがちである。
- ✓ 養成施設で用意されているシートなのに記載方法を理解していない学生がいる。事前に指導をしてほしい。
- ✓ 体感できていても、言葉や文章で表現ができない学生が多くなっている。

## 介護過程の指導について養成校への要望

- ✓ 「実習施設さんにおまかせ」と丸投げの学校がある。
- ✓ 複数の学校からの受け入れをしている立場からすると、シート等について、ある程度統一的なものであればありがたい。記録物などにもそれぞれの特徴があり指導しづらい部分がある。
- ✓ 帰校日にどのような指導をしたのかを教えてもらいたい。共有してくれる学校はありがたい。

## 実習施設へのヒアリング調査結果 1

### 介護過程を指導するうえでの工夫

- ✓ 「実習の振り返りシート」を作り、その日の目標、困ったこと、話を聞いてみたい職員はいるかなど、記入してもらい対応している
- ✓ 学生に関する申し送りシートを作成、実習の進捗状況をパソコンで共有している
- ✓ 実習生が計画を立案する際、実習後の継続性を含めて考えてもらっている。継続して成果が出た場合は、養成校を訪問した際に伝えると実習生も喜んでいる。
- ✓ 多職種を入れた模擬カンファレンスを実施、巡回時に設定して教員にも参加してもらうこともある。その時の教員の指導が、職員の学習に繋がっている。
- ✓ 学生の自由度を妨げることになるかもしれないが、担当する利用者を施設側で決めて、事前に必要な情報がある程度提供、オリエンテーションの際にその方に会うなどさせている。学校側もしっかり勉強して臨むように指導してくれているようなので、ある程度予備知識を持ってスタートが切れるので、何もわからない数日間の戸惑いが少なくなるようだ。
- ✓ 学生には、施設のケアプランを見ないように、学生自身がある程度アセスメントした後で見るように助言している。
- ✓ 養成校の教員から、最新の技術や用語などを教えてもらう勉強会を開くことで、学生とのギャップを埋めるのに役立っている。
- ✓ 思考の誘導ではなく、見えていないところを見るように視点の誘導を行っている。

# 研究の総括と今後の課題

## 1 学生の多様性に対応した教育実践

- ✓ 養成校では、学習効果を高めるための工夫（身近な題材や事例の活用、模擬カンファレンスの実施など）が行われている。
- ✓ 教員、実習指導者ともに、他の養成校や他施設で使用している教材や演習の方法などに関心が高い。  
（情報交換を望んでいる）
- ✓ 社会人学生や留学生など学生が多様化しており、生活経験、アセスメント能力や理解力、文章力の差が大きく、指導に苦慮している。

## 2 養成校と実習施設の連携

- ✓ 実習中の指導を、実習施設に任せきっている実習施設があるとの指摘。
- ✓ 養成校ではどのように教えているのか、授業資料や教授内容等を実習指導者と共有する機会が有効。  
（資料の配布・実習施設への出前講座・実習指導者懇談会等）
- ✓ 実習施設から、実習の反省・要望・課題など実習指導の実践報告や、他施設と介護過程の指導に関する課題や工夫を共有する機会を持つようにしている。
- ✓ 実習中に、学生・実習施設（関係職種）・教員の三者による介護過程を指導するためのカンファレンスを実施している。

# 研究の総括と今後の課題

## 3 今後の課題

- ・「介護過程の定義がテキストによって異なっている」
- ・「養成校によって介護過程のシートが異なる」
- ・「現場では、ケアマネジメントとの関係が不明確」



- ◆ 養成校と実習施設が協力し、介護過程の教材開発や演習の事例作成、教授方法など、教育研究を積極的に行うこと
- ◆ 「介護過程」そのものを構築していくことが必要であり、それが介護福祉士の専門性を高めることに繋がる

✓ 報告書は、養成校によって修学年限や実習の時期が異なることなどから、統一した介護過程の教授法やシートを作成するのではなく養成校から提供いただいた教材を課題ごとにまとめている。各校の課題に併せて活用いただきたい。